



現代社会学部現代社会学科
都市環境デザインコース教授
河辺泰宏

【学歴】
1987年3月 名古屋大学大学院工学研究科
建築学専攻博士課程満期退学

【職歴】
1987年4月 愛知淑徳短期大学家政学専任講師
1992年4月 愛知淑徳短期大学家政学助教授
1995年4月 愛知淑徳大学現代社会学部助教授
1998年4月 愛知淑徳大学現代社会学部教授
(現在に至る)

建築史の再構築を試みた 名著を翻訳

河辺教授の専門はイタリアを中心とする西洋建築史で、翻訳も手がけています。1990年から10年間は、日本とトルコの共同研究チームに加わり、イスタンブールにある6世紀の教会堂ハギア・ソフィア大聖堂の調査にも参加しました。最近では日本の明治以降の近代建築の保存と再生に関心があり、「古い建物にこんな新しい価値、魅力を付与して残していくかも、歴史をやっている者の役割だ」と思っています」と話してくれました。

【最近3年間の研究業績・著作リスト】
* Geometrical Analysis of the Setting Lines and the Original Form of the Main Dome of Hagia Sophia Reconstructed in the 6th Century, "Proceeding of the IASS International Symposium 2000, Istanbul, p79-88.(共著論文)2000年
「煉瓦およびモルタルの性状について」『ハギア・ソフィア学術調査団 研究成果報告会報告集』p221-222.(単著論文)2001年
「ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年」(河出書房新社)2001年
「ポルドウィン・スミス 建築シンボリズム」(中央公論美術出版)2002年

最 近、二冊の本を出版した。一つはローマ建築の歴史を写真入りでわかりやすく概説した『図説ローマ』『永遠の都』都市と建築の2000年(河出書房新社)であり、もう一つは建築史研究の金字塔として名高いポルドウィン・スミスの『建築シンボリズム』の邦訳中央公論美術出版である。前者は建築や美術の歴史に興味を持つ愛好家むきに書いたものであるが出版社からローマについて何か書かないかと誘われたのが

後 者は、古代、中世建築の形態に込められた象徴的意味を解説するという極めて困難なテーマを主軸として新たに古銭学や神話学の成果を動員し、建築史の体系的な再構築を試みた歴史的名著の翻訳であるが、これは構想から出版ま



で10年近くかかってしまった。この書に初めて触れたのは、名古屋四郎博士の授業においてであった。当時、まだ建築史の基礎的な知識さえおぼろげなままだったが、続けて出てくる専門用語と時代や地理的広がり大きさにとまどいを覚え、四苦八苦しながら担当箇所の訳出に苦しんだ。その時には理解できない悔しさだけが残り、後日、意を同じくする学生同士数名で勉強会を開いて再度読み合わせに挑戦することになったが、この時もまた能力と時間の制約により初志貫徹できずに終わってしまった。あれから十数年が経過し、

この本の魅力を教えていただいた恩師のお力添えにより、遅ればせながら邦訳の出版にこぎ着けることができた。ようやく学生時代からの念願がかなった。

現 在は、同じスミスの著した『ドームの翻訳に取りかかっているが、これもまた前書に増して難解な研究書ゆえ、一体いつになったら完成するのか目途は立っていない。しかし、こうしたスケールの大きい優れた学者の考えに触れることで、建築史の面白さを再認識することが出来るのはひとかたならぬ喜びである。パリコンに向かう時間が長くなって腰を痛めてしまうのが唯一の危惧である。



「ロシア連邦議会—制度化の検証:1994-2001」
文化創造学部助教授
皆川修吾
A5判/191ページ/漢水社/3,150円/2002.8.1発行 長年にわたって構築してきたロシア議会の制度化に関する膨大な独自資料を独自の制度化理論と結びつけた学術的研究著書。そこでは移行期の議会活動を分析して民主化の進展度および可能性を検証すると同時に、新憲法制定(1993年12月)後、絶えず変容している政治環境下において、新議会はどのような組織構造のもとで、どのようなシステム機能を果たしているかを検証している。

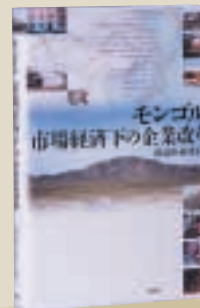
「はじめて学ぶ日本の絵本史」
文化創造学部助教授
酒井晶代(共著)
A5判/450ページ/ミネルヴァ書房/3,000円/2002.7.25発行 第二次大戦後から現在までの絵本の歩みを時代別・項目別に編んだ通史。著者は、第3章「過渡期の絵本叢書」を執筆。戦後復興期に新潮社から刊行された「世界の絵本」シリーズを近代絵本と現代絵本の接点に立つ叢書として位置づけ、その全貌と歴史的意義を考察した。



「教室で学ぶ『社会の中の人間行動』心理学を活用した新しい授業例 (21世紀型授業づくり48)」
コミュニケーション学部教授
斎藤和志(共編著)
A5判/177ページ/明治図書/2,160円/2002.6発行 「人の行動のしくみ」や「対人関係」に関して得られた社会心理学や教育心理学的な知見を、中学生に体験的に教えることにより、「人間」や「社会」について考える能力を刺激し、社会的コンピテンスを高めることを目指した授業を紹介。



「新日本児童文学論」
文学部教授
堀尾幸平
A5判/241ページ/中部日本教育文化会/2,095円/2002.4.1発行 「児童文学論」、新資料、最新の統計を駆使した「平成期の児童文学」を含む「日本児童文学史」のほか、「童話作法」「作家年譜」「児童文学史年表」等を収録。



「モンゴル / 市場経済下の企業改革」
コミュニケーション学部教授
真田幸光(共著)
A5判/288ページ/新評論/4,800円/2002.7発行 市場経済に突入したモンゴル経済の実情を企業改革の視点から解説した。モンゴルの政治・経済・文化・社会を網羅的に紹介、世界の中の韓国、そして日韓関係について解説した。各界専門家に執筆を依頼し、編集したもので、



「早わかり韓国」
コミュニケーション学部教授
真田幸光(共編著)
B5判/298ページ/日本実業出版社/1,400円/2002.6発行 日韓ワールドカップサッカー大会共催、韓国の大統領選挙を睨んで、現在の韓国の政治・経済・文化・社会を網羅的に紹介、世界の中の韓国、そして日韓関係について解説した。各界専門家に執筆を依頼し、編集したもので、

著書紹介

著者自らが近刊を紹介します。

随想

修化学606号



文学部図書館情報学科
教授 林博司

芸術は「私」であり、科学は「我々」がであると言われる。「我々」という考え方は自然科学の多くの分野で当てはまると思うが、生命科学の研究者として、人生のほとんどを過ごしてきた私に「私」として見たいと思ったことが無かったわけではない。特に若いときはそうであった。査読つき専門誌に掲載可能な論文になるという意味で研究らしいことを始めたのは東大の修士課程の時であった。核酸分解酵素の逆反応を利用してグルタール酸の水モリマーを合成して、その性質を調べることがテーマであった。内心では少し頑張れば、遺伝暗号を解き明かせるかと皮算用をして張り切っていた。

しかし私がオリゴヌクレオ酸しか合成できていないうちに、ニトレンバグらによりポリウリジル酸を用いてフェルアラソンの遺伝暗号が証明され、少し苦しかったがその快挙に対して祝杯を挙げたのを今でも忘れない。理は取れなくとも、それなりに修士論文を完成させて授与された学位記の番号が(修化学606号)であったことが妙にうれしかった。生化学を学んだ人なら、ひとつの金字塔として憶えているトルリッヒの606号と重ね合わせて験を担いだのである。やはり、「私」の心が動いていたのだと思う。

これ以降、遺伝情報・感覚情報の変換・伝達にかかわる分子的なメカニズムの研究を中心に歩んできた。しかし私がオリゴヌクレオ酸しか合成できていないうちに、ニトレンバグらによりポリウリジル酸を用いてフェルアラソンの遺伝暗号が証明され、少し苦しかったがその快挙に対して祝杯を挙げたのを今でも忘れない。理は取れなくとも、それなりに修士論文を完成させて授与された学位記の番号が(修化学606号)であったことが妙にうれしかった。生化学を学んだ人なら、ひとつの金字塔として憶えているトルリッヒの606号と重ね合わせて験を担いだのである。やはり、「私」の心が動いていたのだと思う。

共同研究者らと共に、これらの現象に宿る、自然の仕組みの見事さを知れば知るほど、生命体が構成する細胞社会のように、おのおの「私」を持ちつつ「私」を捨てたところに調和があり、美があり、真理があるのだと思つようになった。

研究の第一線にとどまる体力主として視力の衰えは感じつつも、師でもある先輩科学者の勧めを受け、淑徳の情報関連教科を担当することとなったのは、畑違いの「私」を「我々」の中に入れてくれる土壌が嬉しかった事と、真理に対する憧れがまだ私の中に残っているせいであろうと思つこの頃である。